

第3 展示室：たたら製鉄はどうなったか？

たたら製鉄は、18 世紀から 19 世紀後半にかけて中国地方（広島県、岡山県、島根県、鳥取県、山口県）の主要産業であった。ある時期には、この地域の鉄生産量は国内の鉄鋼生産量の 80%を占めていた。

19 世紀後半に西洋の反射炉や角炉が登場すると、製錬業界は厳しい競争にさらされるようになった。たたら炉に比べ、これらの西洋的な炉は、より早く、より多くの鉄と鋼を生産した。

技術者たちはより効率的なたたら炉を設計し、砂鉄の特徴的な使い方を踏襲しながら、新しいタイプの鋼鉄を開発した。安来の港町は、この研究開発の重要な拠点となった。しかし、伝統的なたたら製鉄所は最終的に競争に打ち勝つことができず、1920 年代にはほとんどが閉鎖されたが、製錬の遺産は現代の安来の鉄鋼業に受け継がれている。

このセクションの展示は、西洋からの新技術の出現の前後で、地元の製鉄所がどのように製鉄・製鋼業に機能していたかを説明している。